



梅若研能会

一月公演

令和5年1月22日(日) 午後1時始(開場12時)
於 国立能楽堂
National Noh Theater 4-18-1, Sendagaya, Shibuya-ku, Tokyo
Sunday 22 January 2023 Start 13:00 (door open 12:00)

国立能楽堂
渋谷区千駄ヶ谷4-18-1
☎ 03 (3423) 1331

- JR千駄ヶ谷駅 徒歩5分
- 大江戸線・国立競技場駅 徒歩5分
- 副都心線・北参道駅 徒歩7分

入場料 (全席指定)
指定席 A **7,000円** 指定席 B **6,000円**
※学生席 (要学生証) 各席 3,000円引き

お問い合わせ・お申し込み
e+ (イープラス)
<https://eplus.jp/ath/word/69495>

カンフェティ TEL0120(240)540 (平日10:00-18:00)
<http://www.confetti-web.com/umeken>

公益財団法人 梅若研能会
〒151-0066 渋谷区西原1-4-2 TEL 03(3466)3041
〈メールアドレス〉 staff@umewakakennohkai.com
〈ホームページ〉 <http://www.umewakakennohkai.com>

YouTube 演目の見どころ解説動画を公開中!

フェイスブック はじめました! 公演情報更新中!

令和5年梅若研能会 全七公演開催日のお知らせ

一月公演	1月22日(日)	国立能楽堂
四月公演	4月20日(木)	セルリアンタワー能楽堂
六月公演	6月11日(日)	観世能楽堂
九月公演	9月21日(木)	セルリアンタワー能楽堂
十月橘香会	10月22日(日)	国立能楽堂
十一月公演	11月16日(木)	セルリアンタワー能楽堂
十二月公演	12月10日(日)	観世能楽堂



[Kamiuta] Umewaka Manzaburō
Noh[Tomoe] Umewaka Yukinaga
Kyōgen[Yoroi] Ōkura Noriyoshi
Shimai [Tōboku Kuse] Umewaka Masaharu
[Nomori] Umewaka Norinaga
Noh[Kasugaryūjin] Umewaka Yasushi

能「巴」「春日龍神」みどころ講座

12月24日(土) 14:00~15:30 (開場 13:45)
於・梅若万三郎家能舞台 (渋谷区西原1-4-2)

受講料 1,000円 (※研能会入場券購入者は無料)

講師 梅若志長 (うめわか ゆきなが)
平成12年生まれ、梅若紀長の長男。祖父・三世梅若万三郎及び父・梅若紀長に師事。平成22年「合浦」にて初シテ、平成25年「千歳」抜キ(初演)、平成25年秋「烏帽子折」の子方を勤める。令和3年「石橋」「乱」抜キ。



講師 梅若泰志 (うめわか やすし)
昭和42年埼玉県生まれ、平成元年梅若万三郎家入門。三世梅若万三郎に師事。平成13年梅若万佐晴家に婿養子に入り梅若姓となる。公益財団法人梅若研能会評議員、観世流準職分。平成5年「小袖曾我」にて初シテ以降、都内各地及び近郊で能の普及に努めている。



神歌

梅若万三郎
(千歳) 長谷川晴彦

(二時十五分頃)

能巴

前シテ(里の女)
後シテ(巴御前の霊)

梅若 志長

ワキ(旅の僧) 村瀬 提
アイ(粟津の里人) 上田 圭輔

大鼓 亀井 洋佑
小鼓 飯田 清一

笛 槻宅 聡

地謡
古室 知也
加藤 眞悟
伊藤 嘉章
遠田 修
梅若 久紀

休憩 十五分

狂言 鎧

(二時五十分頃)

シテ(太郎冠者) 大藏 教義

アド(主人) 大藏吉次郎
アド(すっぱ) 吉田 信海

後見 小槻 直人

仕舞 東 北
野 守

梅若万佐晴
梅若 紀長

地謡
中村 政裕
長谷川晴彦
加藤 眞悟
青木 健一

(三時五十五分頃)

休憩 十五分

能 春日龍神

前ツレ(宮) 守 古室 知也
後ツレ(龍) 女 梅若 紀佳
後ツレ(龍) 女 梅若千音世
前シテ(老宮守) 梅若 泰志
後シテ(龍神)

ワキ(明恵上人) 森 常好
ワキツレ(従僧) 大日方 寛
ワキツレ(従僧) 小林 克都

大鼓 柿原 光博
小鼓 幸 信吾
太鼓 桜井 均
藤田 次郎

アイ(神職) 大藏彌太郎

後見 梅若 雅一
加藤 眞悟

地謡
梅若 志長 長谷川晴彦
青木 健一 伊藤 嘉章
梅若 久紀 八田 達弥
遠田 修 梅若 紀長

(終演予定 五時五十分頃)

能 巴 (ともえ)

旅の僧が粟津ヶ原を訪れると、松蔭に祀られた神の前で涙を流す、一人の女(前シテ)がいた。僧が声をかけると、女は、ここに祀られているのは木曾義仲であると教え、自分はある人物の幽霊であると明かして消え失せる。僧が叩いていると、先刻の女が鎧兜を身にまとった姿で現れた。女は、義仲に仕えた女武者・巴御前の幽霊(後シテ)で、義仲の最期を語るのだった。

狂言 鎧 (よろい)

今回の持ち物の自慢大会は鎧の較べ合いということなので、主人は太郎冠者を呼びだし、鎧があるかと尋ねたが、ありません。そこで、主人は太郎冠者に都で鎧を買ってくるように命じます。

都に着いたものの、鎧がどんなものであるか知らない太郎冠者が「鎧買おう」と言いながら歩いていると、鎧の商人だという詐欺師に出会い……。

能 春日龍神 龍女之舞

(かすがり ゆうじん りゅうにょのまい)

天竺への旅を決意した明恵上人は、崇敬する春日大社へと暇乞いに参詣する。老宮守(前シテ)は、明恵が春日明神からの信頼厚い人物であること、釈尊滅後の今においては春日の地こそが聖蹟・靈鷲山にも等しき仏法の聖地であることを明かし、出発を思い留まるよう諫める。その言葉を受けて旅の中止を決意した明恵……。やがて龍女が現れ舞を舞うと、龍神(後シテ)が登場し、釈迦の説法、入滅のさまを示すと猿沢の池に姿を消す。

次回予告

4月20日(木) 午後1時始
セルリアンタワー能楽堂
能「屋島」 八田達弥 ほか